

## 箱根集会報告（第1回） 「出す」から始まる健康法

箱根での二泊三日の研究集会を終えて PC を開くと 50 本のメールが来ていた。大半が商業メールだったが、その中に定期購読している「アジア記者クラブ通信」の最新号があった。

開いてみると寺島先生と美紀子先生が翻訳された記事が見つかった。寺島先生の担当されたのがアンドレ・ヴェルチェック「過激派ウイグルを操る西側マスコミは分離派の宣伝機関―最終目標は中国の全ての破壊」で、美紀子先生が担当されたのがキム・ピーターセン「反中国で目が曇った香港報道―住民の不満は貧困と住宅難（英植民地の負の遺産）との戦い」であった。これを見たとき「これは早速、年明けの授業で使えるぞ」と思った。

というのは、私は後期授業の水曜 3 限の選択英語（受講者 10 人）でチャップリン「独裁者」の演説を扱っているのだが、語順訳穴埋めプリントに追加した「まとめのプリント」の中の以下の設問に「ウイグル人に対する中国政府の弾圧」と回答した学生がいたからだ。

16. " a system that makes men torture and imprison innocent people"（部下に命じて罪のない人を拷問したり投獄させるようにする組織）とあります。映画の中では、罪のないユダヤ人がヒンケルの軍隊から酷い仕打ちを受けたり強制的に収容所に入れられたりしていましたが、現代社会においてはこのようなことは起こっていないでしょうか。その例を挙げなさい。

この授業はちょうどプリント提出の締切日だったので回収して点数を記帳しその場で返却した。そのときに「まとめのプリント」の中にあつた面白い解答を読み上げて他の級友に紹介していたのだが、その中にこの回答があつた。彼女は回答の末尾に「URL、執筆者名、検索時間」を記入していたので、それについては引用の作法どおりであると褒めた後で、「ネット情報を読むときには最低 3 つは調べてみるとよい」とアドバイスしていた。

この授業では最初の映画鑑賞のときにも「視聴レポート」の中の質問に答える形で「櫻井ジャーナル」の記事や関連の動画などを紹介していたのだが、年明けの授業では上記の 2 本の記事を配布して紹介し、ヴェルチェックの方は一部分を読み合わせたいと思う。

また、その時には併せてかつて寺島先生が紹介された動画も見せたい。この動画は英文に合わせて様々な映像が紹介され、"By the promise of these things, brutes have risen to power. But they lie. They do not fulfill that promise. They never will." のところではニクソンからオバマまで、8 人の米国大統領が登場する。西側メディアが「独裁者」と呼ぶのはつねに米国の思惑どおりに動かない国の指導者ばかりであり、中国の指導者・習近平もその中の 1 人であることを知ってもらいたい。（なお、この動画は以下の URL にある。）

[https://ord.yahoo.co.jp/o/video/RV=1/RE=1577865922/RH=b3JkLnIhaG9vLmNvLmpw/RB=/RU=aHR0cHM6Ly93d3cueW91dHViZS5jb20vd2F0Y2g\\_dj1SelRta29SNm1NUQ--/RS=%5EADB9C0unPSLsEcL0JfBsEcvf\\_tU.yc-;\\_ylt=A2RCL65CAQteOUcAdSqHrPN7;\\_ylu=X3oDMTBiaGxjcmduBH Z0aWQDanBjMDAy](https://ord.yahoo.co.jp/o/video/RV=1/RE=1577865922/RH=b3JkLnIhaG9vLmNvLmpw/RB=/RU=aHR0cHM6Ly93d3cueW91dHViZS5jb20vd2F0Y2g_dj1SelRta29SNm1NUQ--/RS=%5EADB9C0unPSLsEcL0JfBsEcvf_tU.yc-;_ylt=A2RCL65CAQteOUcAdSqHrPN7;_ylu=X3oDMTBiaGxjcmduBH Z0aWQDanBjMDAy)

さて、まえがきはここまでにして研究集会の報告に入る。集会が終わってからの三日間

は大掃除、年賀状で忙殺されていたが、今日、はじめて落ち着いて PC に向かっている。印象に残った出来事を思いつくままに綴りたい。

まず最初に「寺島メソッド健康教室」の資料から、寺島先生が便秘で苦しんでおられた新見先生へのアドバイスとして言われた言葉を取り上げる。それは「食べれば出ない」「食べなければ出る」である。ふつうに考えたら「食べれば出る」「食べなければ出ない」となるのであるが、実際はそうはならないのである。

食べると身体のエネルギーは食べたものを消化するために使われて排泄には向かわず、食べなければそのエネルギーは排泄だけに使われることになるからだ。食べたものが無いのに何を排泄するかというと、そのエネルギーは「宿便」を外に出すのに使われる。これは普通の便とは違って長い間、細胞組織にへばりついているもので万病の元になっている。

寺島先生は森下敬一『自然医食療法』(文理書院)から次の一節を引用して、病気の「水源地」が宿便であることを分かりやすく説明された。

「昔から東洋医学では、四百四病、八百八病はすべて宿便から起こるといい、ヨーロッパでも、病気は一種類しかなく、それは排泄障害であると言われてきた」。

寺島先生はまた次のような興味深い指摘もされた。「なぜ森下氏は同書で便秘に効き目がある食品をいくつも紹介しながら(しかも彼の「長寿研究所」にはアロエが植えてあるにもかかわらず)、なぜそこでアロエには言及しなかったのか? その理由はアロエは「出す」力が強力だから他の薬を必要としない。そうすると彼が販売している高価な特効食品が売れなくなるからだ」。アロエは誰もが使える健康維持の妙薬なのである。

もう二年ほど前のことになると思うが、美紀子先生が私に「アロエがあれば何を食べてもいいのかもしれないわ」と言われたことを思い出す。寺島先生ご夫妻はそのときにはすでに今回提示された仮説に到達されていたのかもしれない。

私は以前に美紀子先生からアロエを一鉢いただいたのだが、それは今や 18 倍になり生葉と錠剤を交互に摂るのが日課になっている。朝は食べないことが多いが、紅茶を一杯飲んで歯磨きをしていると自然とトイレに行きたくなる。アロエを摂るようになったこの 3 年間はこれまで私の 64 年の人生の中で最も爽やかな気持ちで毎日をスタートしていると言ってもいいだろう。

今回の寺島先生のレジュメでもうひとつ目にとまったことを記しておく。2 枚目の最後の一節である。「病気も教育も運動も、すべて「出す」ことが基本、「入れる」は後から」という仮説の最初の例として「出し入れ」「出入り口」「Give&Take」の 3 つの言葉が挙げられている。名は体を表す、の諺どおり、どれも「出る」が「入る」の先に来ている。

ところで私は、かつてこの掲示板で「情けは人の為ならず」という諺には 2 つの解釈があるようだと言ったことがあるが、この仮説にしたがうならば、「情けを与えるのは人の為にならない」ではなく「情けを与える(Give)のは自分の為になる(Take)」と解せると思った。

ちなみに「文化庁月報 平成 24 年 3 月号(No.522)には後者が正しい解釈であるとする根拠として次のような解説が掲載されている。

この言葉を本来とは違う意味で理解してしまうのは、「ためならず」の解釈を誤ってしまうからだと考えられます。もし「情けは人のためにならず」というのであれば、「その人のためにならない」と受け取れるでしょう。しかし、「人のためならず」の「ならず」は、[断定の「なり」] + [打ち消しの「ず」] ですから、「である + ない = ~でない」という意味になり、「人のためでない (=自分のためである)」と読み取る必要があります。こここのところがはっきりしないことが「人のためにならない」と解釈する人を増やしている理由だと考えられます。

最後に新見先生がさらに元気になる情報をひとつ紹介する。寺島先生は「新見さんは造血を行なっている小腸の上部を切り取ってしまったが、身体には適応能力があるので、やがては脊髄がその働きをするようになるだろう」と励ましておられたが、私が昨日、偶然に読んでいた本に「経絡」においても造血しているという森下敬一氏の見解が出ていた。

つまり、人体では「食物による小腸絨毛造血」と「氣(生命エネルギー)による経絡造血」の二重構造になっていて、後者がよりベーシック(基本的な)造血形態と考えられます」

詳しくは、船瀬俊介『書かずに死ねるか—新聞・テレビが絶対報じない〈日本の真相!〉』(成甲書房 2018) pp.204-218 を見て下さい。なお、今回の投稿はここまでで終わり、次回はネクサスに関することについて報告します。(20191231)